

■ 事業報告

(1) 第57回日本形成外科学会総会・学術集会

会 期：平成26年4月9日（水）、10日（木）、11日（金）

会 場：長崎ブリックホール、長崎新聞文化ホール、NCC&スタジオ（長崎市）

会 長：平野 明喜 長崎大学医学部形成外科学

下記の特別講演、招待講演、特別企画講演、International Forum、特別企画、教育セミナー、シンポジウム等が行われた。

【特別講演】 第1日 4月9日（水）

司会 帝京大学形成外科 平林 慎一

『世界の構造変化と日本の進路』

一般財団法人日本総合研究所 理事長 寺島 実郎

【招待講演Ⅰ】 第1日 4月9日（水）

司会 金沢医科大学形成外科 川上 重彦

『Lessons from the Masters』

University of California, Los Angeles, USA /

Henry K. Kawamoto, Jr.

【招待講演Ⅱ】 第2日 4月10日（木）

司会 京都大学形成外科 鈴木 茂彦

『Technology Innovation and the Future of Plastic Surgery』

Stanford University, USA / Geoffrey C. Gurtner

【招待講演Ⅲ】 第3日 4月11日（金）

司会 東京慈恵会医科大学形成外科 内田 満

『Past, Present, and Future of Hand Surgery and Microsurgery in Korea』

Korea University Guro Hospital, Korea / Woo Kyung Kim

【特別企画講演Ⅰ】 第2日 4月10日（木）

司会 大阪大学形成外科 細川 亙

『私が行っている“笑いの医療”の普及について～「お達者落語会」の状況～』

有限会社 ABE メディカルサポート 安部 正之（春雨や落雷）

【特別企画講演Ⅱ】 第3日 4月10日（木）

司会 田岡病院・外傷・創傷治療センター 中西 秀樹

『再生医療等安全性確保法について』

厚生労働省医政局研究開発振興課再生医療研究推進室 堀 裕行

【International Forum I】 第2日 4月10日（木）

司会 埼玉医科大学形成外科 中塚 貴志

『Facilitating Evidence-Based Medicine Culture in Plastic Surgery:

The Potential of Registries for Improving Patient Care and Outcomes』

Lehigh Valley Health Network, USA / Robert X. Murphy, Jr.

『Bone-anchored penile epithesis: initial results』

Department of Plastic Surgery, Institute of Clinical Sciences,

Sahlgrenska Academy, University of Gothenburg, at Sahlgrenska

University Hospital, Sweden / Gennaro Selvaggi

『Intracranial volume after spring assisted surgery, or Pi-plasty for sagittal synostosis』

The Journal of Plastic Surgery and Hand surgery, Sahlgrenska

University Hospital, Sweden / Lark Kolby

『Improvements in cleft treatment through team approach』

The Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery, Sahlgrenska

University Hospital, Sweden / Anna Elander

【International Forum2】 4月10日（木）

司会 新潟大学形成・再建科 柴田 実

『Rejuvenating Hand Surgery for Japanese Plastic Surgery』

University of Michigan School, USA / Kevin C. Chung

『Plastic Reconstructive Surgery in Myanmar Japan』

Collaboration of PRS

Yangon General Hospital, Myanmar / Moe Thuzar

【特別企画 I】 第1日 4月9日（水）

『予防的乳房切除の今後』

司会 福岡大学形成外科 大慈弥裕之

特別企画 1-1 遺伝子診断が医療にもたらすもの

長崎大学原爆後障害医療研究所人類遺伝学研究分野 吉浦孝一郎

特別企画 1-2 遺伝性乳がん・卵巣がん (Hereditary Breast and Ovarian Cancer: HBOC) とリスク低減乳房切除術

ー世界の動向と日本のこれからー

昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門 中村 清吾

特別企画 1-3 リスク低減予防的乳房切除術と再建

がん研有明病院形成外科 澤泉 雅之

特別企画 1-特別発言 予防的乳房切除後の人工物による乳房再建の経験

ー形成外科医の立場からー

医療法人社団ブレストサージャリークリニック 岩平 佳子

【特別企画Ⅱ】 第1日 4月9日（水）

『女性医師キャリア継続のために』

司会 藤田保険衛生大学形成外科 吉村 陽子
京都大学形成外科 鈴木 茂彦

特別企画 2-1 女性医師キャリア継続のために

京都大学形成外科 山脇 聖子

特別企画 2-2 再建外科医としてキャリア継続のために

静岡県立がんセンター再建・形成外科 北辻 まき

特別企画 2-3 女性医師のキャリア継続のために

-専門医取得後の出産について-

順天堂大学形成外科 響場 恵美子

特別企画 2-4 キャリアアップを目指すなかで女性として生きる難しさ

順天堂大学形成外科 田中 里佳

特別企画 2-5 女性医師のキャリアアップに対する東北大学形成外科の取り組み

東北大学形成外科 館 正弘

特別企画 2-6 女性医師のキャリア継続のために

-愛知医科大学における取り組みと問題点-

愛知医科大学形成外科 横尾 和久

【特別企画Ⅲ】 第1日 4月9日（水）

第1回皮膚腫瘍外科指導専門医シンポジウム

“Unfavorable result cases ～ 明日の治療に向けて ～ ”

司会 北海道大学形成外科 山本 有平
神戸大学形成外科 寺師 浩人

特別企画 3-1 皮膚腫瘍外科における unfavorable result cases の分類
何が unfavorable なのか？

神戸大学形成外科 野村 正

特別企画 3-2 メラノーマにおける Oncological Unfavorable Result Cases

国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科 堤田 新

特別企画 3-3 リンパ節転移を生じた乳房外パジェット病の問題点

鹿児島大学皮膚科 松下 茂人

特別企画 3-4 腫瘍切除後の眼瞼周囲機能的再建について

大分大学形成外科 清水 史明

特別企画 3-5 下肢の悪性腫瘍手術における functional unfavorable result

長崎大学形成外科 田中 克己

特別企画 3-6 足底原発皮膚悪性腫瘍切除後の再建における unfavorable result

北海道大学形成外科 古川 洋志

特別企画 3-7 顔面広範囲欠損再建における Aesthetic unfavorable result.

～Unfavorable case から学んだこと～

大阪市立大学形成外科 元村 尚嗣

特別企画 3-8 皮膚腫瘍外科における Unfavorable result casesn の捉え方
 -Aesthetic な側面をふまえて-

順天堂大学形成外科 林 礼人

【特別企画Ⅳ】 第2日 4月10日(木)

『ガイドラインを作成して -反省と今後の展開-』

司会： 久留米大学形成外科・顎顔面外科 清川 兼輔

東京医科大学八王子医療センター形成外科 菅又 章

特別企画 4-1 口唇・顎・口蓋裂その他のガイドラインを作成して
 -反省と今後の展開-

昭和大学形成外科 土佐 泰祥

特別企画 4-2 頭頸部再建ガイドライン作成における問題点と展望

筑波大学形成外科 関堂 充

特別企画 4-3 ガイドラインの浸透性と統一性

神戸大学形成外科 寺師 浩人

特別企画 4-4 ガイドラインの作成と査読を通じて

長崎大学形成外科 秋田 定伯

特別企画 4-5 鼻骨・鼻篩骨骨折ガイドラインを作成して-反省と今後の展開-

久留米大学形成外科・顎顔面外科 力丸由起子

特別企画 4-6 「顔面変形(骨切り手術)」ガイドラインの作成を担当して
 -反省と今後の課題-

岩手医科大学形成外科 柏 克彦

【特別企画Ⅴ】 第3日目 4月11日(金)

司会： 国立成育医療研究センター形成外科 金子 剛

東邦大学形成外科 大西 清

『平成26年度診療報酬改定について

-厚労省のめざす診療報酬のありかたと形成外科への影響-』

演者： 千葉県こども病院形成外科 宇田川晃一

筑波大学形成外科 関堂 充

【教育セミナーⅠ】 第1日目 4月9日(水)

司会： 日本大学形成外科 仲沢 弘明

『長期結果から見た小児熱傷』

北九州総合病院形成外科 迎 伸彦

【教育セミナーⅡ】 第1日目 4月9日(水)

司会： 京都府立医科大学形成外科 西野 健一

『口蓋裂の治療方法、手順と言語の長期成績について』

静岡県立こども病院形成外科 朴 修三

【教育セミナーⅢ】第1日目 4月9日（水）

司会：香川大学形成外科 田中 嘉雄

『血管腫・血管奇形の最近の治療』

斗南病院形成外科 佐々木 了

【教育セミナーⅣ】第1日目 4月9日（水）

司会：近畿大学形成外科 磯貝 典孝

『長期成績から見た上肢先天異常の手術的治療』

埼玉成恵会病院・埼玉手外科研究所 福本 恵三

【教育セミナーⅤ】第2日目 4月10日（木）

司会：日本医科大学形成外科 百束 比古

『眼瞼下垂症治療のピットフォール～機能的眼瞼形成外科のすすめ～』

信州大学形成再建外科 松尾 清

【教育セミナーⅥ】第2日目 4月10日（木）

司会：埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科 三鍋 俊春

『乳房再建のピットフォールとその回避法』

大阪大学形成外科 矢野 健二

【教育セミナーⅦ】第2日目 4月10日（木）

司会：順天堂大学形成外科 水野 博司

『糖尿病を合併した重症下肢虚血の外科的治療：For Improving Outcome』

香川大学形成外科・美容外科 田中 嘉雄

【教育セミナーⅧ】第2日目 4月10日（木）

司会：自治医科大学形成外科 菅原 康志

『長期結果から見た頭蓋（骨）縫合早期癒合症』

大阪市立総合医療センター形成外科 今井 啓介

【教育セミナーⅨ】第3日目 4月11日（金）

司会：札幌医科大学形成外科 四ツ柳高敏

『皮膚悪性腫瘍の診断、治療における留意点とピットフォール』

愛媛大学形成外科 中岡 啓喜

【教育セミナーⅩ】第3日目 4月11日（金）

司会：福島県立医科大学形成外科 上田 和毅

『顔面神経麻痺の治療－静的・動的再建、その組み合わせ－』

東京歯科大学市川総合病院形成外科 田中 一郎

【教育セミナーⅪ】第3日目 4月11日（金）

司会：信州大学形成再建外科 松尾 清

『下眼瞼形成術－効果をたかめるには－』

蘇春堂形成外科 野平久仁彦

【教育セミナーⅦ】 第3日目 4月11日（金）

司会：東邦大学形成外科 大西 清

『各種レーザーの適応と限界』

東海大学形成外科 宮坂 宗男

【シンポジウムⅠ】 第1日 4月10日（木）

『再建外科に応用できる美容外科的手法』

司会：北里大学メディカルセンター 内沼 栄樹

獨協医科大学形成外科 朝戸 裕貴

SY1-1 再建外科に応用できる美容外科的手法－乳房再建の touch up surgery－
医療法人 Yanaga Clinic 矢永 博子

SY1-2 乳房再建術における曲面形成理論と脂肪吸引術の必然性
がん研有明病院形成外科 矢島 和宜

SY1-3 乳房再建、インプラントとデコルテ部分の再建における拡大広背筋皮弁
国際医療福祉大学三田病院形成外科 酒井 成身

SY1-4 美容外科手技：abdominal plasty を応用した乳房再建
TRAM flap デザイン&採取部閉鎖
北海道大学形成外科 古川 洋志

SY1-5 陳旧性顔面神経麻痺治療における美容外科的アプローチ
杏林大学形成外科 多久嶋亮彦

SY1-6 顔面神経不全麻痺に対する美容外科的手術
神戸大学形成外科 橋川 和信

【シンポジウムⅡ】 第3日目 4月11日（金）

『唇裂初回手術ではどこまで治療すべきか』

司会 藤田保健衛生大学形成外科 吉村 陽子

昭和大学形成外科 吉本 信也

SY2-1 口唇口蓋裂総合治療における初回手術の達成目標
埼玉医科大学形成外科 時岡 一幸

SY2-2 片側口唇裂の表層と筋層をサブユニットごとに組み立て
三次元的対称性を得る
北九州市立八幡病院形成外科 田崎 幸博

SY2-3 唇裂初回手術における当科の治療方針
慶応義塾大学形成外科 岡部 圭介

SY2-4 唇裂初回手術ではどこまで治療すべきか
昭和大学形成外科 土佐 泰祥

SY2-5 片側唇顎口蓋裂に対する Primary Bone Grafting は
外鼻形態を改善しているか？
済生会横浜市南部病院形成外科 長西 裕樹

SY2-6 片側口唇裂における披裂側鼻翼縮小に関する調査
 ー披裂側鼻翼縮小を回避するために初回治療で何をすべきかー
 信州大学形成再建外科 杠 俊介

【シンポジウムⅢ】 第3日 4月11日（金）

『遊離穿通枝皮弁の適応と限界』

司会：東京大学医学部附属病院形成外科美容外科 光嶋 勲
 名古屋大学形成外科 亀井 譲

SY3-1 穿通枝皮弁：過去29年間の歴史と適応拡大
 東京大学形成外科美容外科 光嶋 勲

SY3-2 穿通枝皮弁術の限界ーその弱みを知りて、その強みを守るー
 日本医科大学形成外科 小野 真平

SY3-3 頭蓋部再建における穿通枝皮弁の適応と限界
 国立がん研究センター東病院形成外科 櫻庭 実

SY3-4 穿通枝皮弁のリスクマネジメント：前外側大腿皮弁の場合
 静岡がんセンター再建・形成外科 井上 啓太

SY3-5 遊離前外側大腿皮弁の適応と限界～ドナーの合併症に関する検討～
 徳島大学形成外科 安部 吉郎

SY3-6 脂肪層内剥離による薄層型胸背動脈穿通枝皮弁と
 前外側大腿皮弁の適応と限界
 沖縄県立中部病院形成外科 今泉 督

SY3-7 遊離穿通枝皮弁の適応と限界ー過去13年の経験ー
 筑波大学形成外科 関堂 充

SY3-8 乳房一次再建に Square flap を用いることで
 できるようになったことと難しくなったこと
 自治医科大学形成外科 宇田 宏一

SY3-9 遊離穿通枝皮弁による乳房再建の適応と限界
 ー自家脂肪による乳房再建のパラダイムシフトー
 横浜市立大学附属市民総合医療センター形成外科 佐武 利彦

SY3-10 腓腹部穿通枝皮弁の適応と限界
 岩手医科大学形成外科 柏 克彦

（2）第23回日本形成外科学会基礎学術集会

会 期：平成26年10月9日（木）、10日（金）
 会 場：キッセイ文化ホール（長野県松本市）
 会 長：松尾 清 信州大学医学部形成再建外科学教室

下記の特別講演、特別講義、招待講演、教育講演、会長講演、シンポジウム等が行

われた。

【特別講演】 第1日 10月9日(木)

司会 東京大学形成外科 光嶋 勲

『新しいリンパ学の創生』

信州大学医学部メディカル・ヘルスイノベーション講座 大橋 俊夫

【特別講義】 第2日 10月10日(金)

司会 近畿大学形成外科 磯貝 典孝

『手術室における医療安全』

信州大学医学部附属病院麻酔科科長

/信州大学医学部医療安全管理室室長 川真田 樹人

【招待講演】 第1日 10月9日(木)

司会 金沢医科大学形成外科 川上 重彦

『あたらしい暮らし方とものづくりのか・た・ちー間抜けビジネス考ー』

東北大学名誉教授 (合)地球村研究室 代表社員 石田 秀輝

【教育講演】 第2日 10月10日(金)

司会 京都大学形成外科 鈴木 茂彦

『毛の再生と老化』

東京医科歯科大学難治疾患研究所幹細胞研究所幹細胞医学分野 西村 栄美

【会長講演】 第2日 10月10日(金)

司会 大阪大学形成外科 細川 亘

『開瞼の生理学』

信州大学形成再建外科 松尾 清

【シンポジウムⅠ】 第1日 10月9日(木)

司会 東京女子医科大学形成外科 前川 二郎

癌研有明病院形成外科 木股 敬裕

コメンテーター 東京大学形成外科 光嶋 勲

『リンパ管学の研究』

S1-1a-1 流れ刺激によるリンパ管内皮細胞の生物学的機能変化の解析

および臨床応用に向けた基礎研究

信州大学医学部器官制御生理学 河合 佳子

S1-1a-2 ヒト血管・リンパ管の3D組織エンジニアリング

弘前大学大学院医学研究科生体構造医科学講座 下田 浩

S1-1a-3 リンパ管形成におけるシグナル・転写ネットワークの役割

東京薬科大学生命科学部腫瘍医科学研究室 渡部 徹郎

S1-1b-1	体液量測定で紐解くリンパ浮腫ー診断、治療効果、正常ー	信州大学形成再建外科	安永	能周
S1-1b-2	SPECT-CT リンパシンチグラフィによる 機能的リンパ管描出の試みと解剖学的考察	横浜市立大学形成外科	廣富	浩一
S1-1b-3	皮膚悪性腫瘍患者におけるリンパ流速度測定： リンパ節転移予測に関連したリンパ管研究	浜松医科大学形成外科	藤原	雅雄
S1-1b-4	ICG リンパ管造影検査を用いたリンパ流の評価	香川県立中央病院形成外科	品岡	玲
S1-1b-5	包括的リンパ機能・循環評価～ダイナミック ICG リンパ管造～	東京大学形成外科	山本	匠
S1-1b-6	MR Lymphography でリンパの流れを読む 埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科		大西	文夫
S1-1b-7	リンパ浮腫モデルにおける脂肪由来幹細胞を 用いたリンパ管再生療法	長崎大学形成外科	吉田	周平
S1-1b-8	リンパ管学の研究と悪性黒色種	北海道大学形成外科	古川	洋志
【シンポジウムⅡ】 第1日 10月9日（木）				
	司会	埼玉医科大学形成外科 東北大学形成外科	中塚	貴志 館 正弘
『気づく力を育てる』				
S1-2-1	「気づく力」悪戦苦闘の記	香川大学形成外科	永竿	智久
S1-2-2	「気づく力」とは「いかなる可能性も否定しない」柔軟さである	日本医科大学形成外科	小川	令
S1-2-3	気づく力を育むためにー基礎から臨床へー	昭和大学形成外科	土佐	泰祥
S1-2-4	気づかないいかに気づくか	東京大学形成外科美容外科	成島	三長
S1-2-5	我々のケロイド研究の転換点 ～ケロイドと制御性T細胞、免疫バランス～	北海道大学形成外科	村尾	尚規
S1-2-6	計算から見えてくる力	日本医科大学千葉北総病院形成外科	秋元	正宇
S1-2-7	未来は想像するより開発するほうがやさしい	横浜市立みなと赤十字病院形成外科	矢野	智之

【シンポジウムⅢ】 第2日 10月10日（金）

司会 慶応義塾大学形成外科 貴志 和生
順天堂大学形成外科 水野 博司

『幹細胞の研究』

S1-3-1 幹細胞って何？

慶応義塾大学形成外科 貴志 和生

S1-3-2 ヒト脂肪由来幹細胞を用いた糖尿病性皮膚腫瘍治療の研究

東京大学形成外科 木下佳保里

S1-3-3 脂肪由来幹細胞と高密度酸素の併用による新生組織増大効果

香川大学形成外科 浜本 有祐

S1-3-4 脱分化脂肪（DFAT）細胞の自家培養表皮移植時の生着促進効果に

関する実験的検討

日本大学形成外科 副島 一孝

S1-3-5 自己末梢血単核球生体外培養増幅細胞移植による

血管・組織再生治療の臨床研究実施に向けた課題と対策

順天堂大学形成外科 田中 里佳

S1-3-6 幹細胞を融合した強化型自家神経グラフトの開発：

グラフト内シュワン細胞に対する細胞治療法

大阪大学形成外科 富田 興一

【シンポジウムⅣ】 第2日 10月10日（金）

司会 福島県立医科大学形成外科 上田 和毅
埼玉医科大学形成外科 市岡 滋

『物理刺激と細胞組織反応』

S1-4-1 眼瞼ミューラー筋組織はどのように物理刺激を受容して伝達し

開瞼を調節するのか？－組織化学的検討－

信州大学形成再建外科 杠 俊介

S1-4-2 頭皮伸展刺激と毛髪

医療法人社団ウェルエイジングメンズヘルスクリニック東京

小山 太郎

S1-4-3 高圧を用いた皮膚の不活化の検討及び今後の臨床応用

関西医科大学形成外科

森本 尚樹

S1-4-4 物理刺激が爪形態に与える影響

日本医科大学形成外科

佐野 仁美

S1-4-5 物理刺激が創傷治癒に与える影響

－局所陰圧閉鎖療法による創傷治癒促進効果－

日本医科大学形成外科

佐野 仁美

S1-4-6 物理刺激が創傷治癒・瘢痕形成に与える影響

－メカノバイオロジーとメカノセラピー－

日本医科大学形成外科

小川 令

(3) 日本形成外科学会誌を編集・発行した。

第34巻2号	平成26年 2月	96頁	4,590部
第34巻3号	平成26年 3月	72頁	4,560部
第34巻4号	平成26年 4月	72頁	4,580部
第34巻5号	平成26年 5月	109頁	4,600部
第34巻6号	平成26年 6月	80頁	4,630部
第34巻7号	平成26年 7月	63頁	4,660部
第34巻8号	平成26年 8月	72頁	4,710部
第34巻9号	平成26年 9月	74頁	4,620部
第34巻10号	平成26年10月	64頁	4,600部
第34巻11号	平成26年11月	86頁	4,600部
第34巻12号	平成26年12月	106頁	4,590部
第35巻1号	平成27年 1月	80頁	4,600部

(4) Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery を発行した。

第48巻1号	平成26年 2月	96頁	2,350部
第48巻2号	平成26年 4月	64頁	2,350部
第48巻3号	平成26年 6月	64頁	2,350部
第48巻4号	平成26年 8月	64頁	2,350部
第48巻5号	平成26年10月	64頁	2,350部
第48巻6号	平成26年12月	104頁	2,350部

(5) 春季学術講習会及び秋季学術講習会を下記のとおり開催した。

1. 春季学術講習会

日 時：平成26年4月8日(火)

会 場：長崎新聞文化ホール・アストピア 2階 大ホール『翔鶴の間』

題目および講師

テーマ1：『専門医認定審査受審者にむけて、保険診療、先天異常』

1) 専門医認定審査受審者にむけて

大阪大学形成外科 細川 亘

2) 形成外科医に必要な保険の知識

国立成育医療研究センター形成外科 金子 剛

3) 体幹の先天異常

慶應義塾大学形成外科 永竿 智久

4) 四肢の先天異常

東京慈恵会医科大学形成外科 松浦慎太郎

テーマ2：医療安全

5) 感染症診療をとりまく現状と感染制御のトピックス

長崎大学病院 感染制御教育センター センター長 泉川 公一

2. 秋季学術講習会

日 時：平成26年10月8日(水)

会 場：キッセイ文化ホール 1階 『中ホール』

題目および講師

テーマ：『創傷治癒、外傷』

1) 創傷治癒（基礎）

長崎大学形成外科 秋田 定伯

2) 癍痕・ケロイドの病態と治療

北里大学形成外科 武田 啓

3) 顔面の外傷

兵庫県立医科大学形成外科 西本 聡

4) 上肢の外傷

埼玉成恵会病院埼玉手外科研究所 福本 恵三

(6) 皮膚腫瘍外科指導専門医教育セミナーを下記のとおり開催した。

1. 第8回教育セミナー

日 時：平成26年4月11日(金)

会 場：長崎ブリックホール 3階 『国際会議場』

題目および講師

1) 母斑・良性腫瘍・上皮系

宝塚市立病院形成外科 黒川 正人

2) 生検

防衛医科大学校形成外科 清澤 智晴

2. 第9回教育セミナー

日 時：平成26年10月10日(金)

会 場：キッセイ文化ホール 1階 『中ホール』

題目および講師

1) メラノーマ

2) 集学的治療

国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科 堤田 新

(7) 乳房増大用エキスパンダー/インプラント講習会を下記のとおり開催した。

平成26年度第1回講習会

日 時：平成26年9月4日(木)

会 場：東京ドームホテル 地下1階 『シンシア』

題目および講師

1) 使用要件基準(ガイドライン)の概略

獨協医科大学形成外科 朝戸 裕貴

2) 製品及びインフォームドコンセントについて

アラガン・ジャパン株式会社 関口 真紀

3) 外傷・先天異常に対する乳房再建術

埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科 三鍋 俊春

4) 乳房増大術

蘇春堂形成外科 野平久仁彦

(8) 日本形成外科学会専門医の審査を専門医認定委員会において行った。

平成26年度専門医合格者氏名(50音順敬称略)

赤澤 俊文	浅井 晶子	朝本 有紀	阿藤 晃一	阿部 菜穂
石川佳代子	石川 耕資	伊谷 善仁	伊藤 秀憲	岩本 承豪
岩本 昌熙	植木 翔也	上野 佐知	上原 理恵	内田 悠記
江藤 綾乃	江花 梨沙	大川 勝正	太田 真澄	岡 愛子
緒方亜希子	小田祐美子	小野 真平	小野 昌史	加賀谷 優
桂 良輔	加藤 達也	金本 侑子	亀井 千裕	加持 秀明
北辻 まき	金 大志	木村 勇亮	金城 紅子	倉元有木子
栗原 健	黒沢 是之	木暮 倫久	齋藤百合子	坂上 陽彦
阪野 一世	坂本奈津紀	匂坂 理絵	佐藤 大介	佐藤 千草
重村 友香	重吉 直哉	渋谷陽一郎	清水 和輝	須貝明日香
杉本 香	須田 俊一	陶山 淑子	関 征央	瀬崎 伸一
田場 史子	塚本 歩	寺部 雄太	戸田 直歩	中尾阿沙子
中尾 沙良	中尾 崇	長岡麻理子	中島聖李奈	中島 順子
永田亜矢子	中林 洋平	中村 英子	西尾 祐美	橋本 隆宏
波田野智架	濱 ゆき	林 奈津子	原田 慶美	平井林太郎
深谷 絵里	福井 剛志	福田 康裕	本間 勉	前川 絵美
松下 友樹	松島 星夏	松本 健吾	三上 智子	三沢 尚弘
水谷 健人	南澤十規子	美原 留奈	武藤 真由	森田 耕輔
森山 和の	森脇 綾	安形 省吾	安田 路規	柳澤 正之

山崎 俊 吉原 正宣 立 雅恵 渡邊 真泉
合計 99 名 (応募者 115 名)

(9) 日本形成外科学会認定施設の審査を認定施設認定委員会において行った。

平成 27 年度新規認定施設名

【地 区】	【施 設 名】	【登録番号】
関 東	国際医療福祉大学病院形成外科	15-3147-000
	千葉労災病院形成外科	15-3148-000
	埼玉メディカルセンター形成外科	15-3149-000
	済生会横浜市南部病院形成外科	15-3150-000
	横浜旭中央総合病院形成外科	15-3151-000
	新潟県立中央病院形成外科	15-3152-000
中 部	あいち小児保健医療総合センター形成外科	15-5091-000
	聖隷浜松病院形成外科	15-5092-000
	磐田市立総合病院形成外科	15-5093-000
	福井大学医学部附属病院形成外科	15-5094-000
関 西	市立奈良病院形成外科	15-6101-000
	市立池田病院形成外科	15-6102-000
	加古川東市民病院形成外科	15-6103-000
	兵庫県立淡路医療センター形成外科	15-6104-000
中国・四国	広島大学病院形成外科	15-7045-000
九州・沖縄	佐賀県医療センター好生館形成外科	15-8069-000
	九州大学病院形成外科	15-8070-000

(10) 日本形成外科学会専門医更新を専門医生涯教育委員会において行った。

A) 平成 27 年専門医更新者氏名 (50 音順敬称略)

饗場(小島)恵美子	相原 英雄	相原 正記	青木 尚子	青木 文彦
青柳 文也	青山 久	青山 亮介	赤井 秀実	赤尾 明俊
赤松 順	赤松 正	秋岡 二郎	秋月 種高	秋山 太
浅田 一仁	朝戸 裕貴	朝村 真一	東 隆一	阿部浩一郎
阿部 清秀	天野 照仁	綾部 忍	新井 克志	新垣 実
新城 憲	安 成烈	安藤 和正	安藤晋一郎	安藤 正英
安楽 邦明	飯島 三佳	飯沼 義博	井川 浩晴	伊木 秀郎
池田 弘人	池田 欣生	井砂 司	伊沢 宏和	石井 徹
石井 美夏	石井 義輝	石垣 剛正	石川 浩三	石川 修一

石川奈美子	石川 浩一	石倉 直敬	石黒 匡史	石郷岡規久子
石田 敏博	石原 博史	石丸さやか	泉 彰典	板谷 純幸
市田 祐之	一瀬 正治	伊藤 理	伊東 大	伊藤 正彦
伊東 優	伊藤 芳憲	伊藤 嘉恭	犬塚 潔	伊能 和彦
井上 普文	井上 健夫	井上要二郎	今井 啓介	今井 孝行
今井 智浩	今井 由典	今井 啓道	今里賢一郎	今西 宣晶
今村 英一	巖 文哉	岩崎 秀樹	岩崎 理恵	岩澤 幹直
岩城 啓修	岩波 正陽	岩平 佳子	于 あかね	宇井 啓人
宇井 謙二	上田 和毅	上田 晃一	上田 吉生	植村富美子
宇佐美泰徳	牛尾 茂子	臼田 俊和	宇田 宏一	宇田川晃一
内田源太郎	内田 満	内沼 栄樹	有働 幸弘	梅田 整
梅田 直人	漆館 聡志	江頭 通弘	江藤 久志	榎 栄治
江野尻竜樹	蛭沢 克己	蛭原 啓文	扇 博之	大芦 孝平
大岩 彰	大浦 紀彦	大江 恵	大久保文雄	大崎 政海
大澤 栄作	大島 秀男	大島 淑夫	大慈弥裕之	大城 貴史
大城 俊夫	太田 勝哉	太田 洋美	大竹 尚之	大谷 和雄
大谷 一弘	大塚 壽	大塚 守正	大槻 眞澄	大西 清
大西 智子	大宮 由香	大村 勇二	大森喜太郎	大守 誠
大谷津恭之	岡 一郎	岡 潔	岡 敏行	岡 博昭
岡崎 睦	緒方 茂寛	岡田 忠彦	緒方 寿夫	岡部 勝行
岡村 俊哉	小川 晴生	小川 豊	置塩 良政	荻野 浩希
奥田 貴久	奥田 良三	奥村 千香	小倉 猛	小椋 哲実
小住 和徳	鬼塚 卓弥	小野 一郎	小野 繁	小野 陽子
小山 明彦	香川 久香	鍵本 慶子	影山 広美	梶 彰吾
梶 ひろみ	梶川 明義	加治佐卓也	柏 克彦	柏 尚裕
柏木 圭介	片岡 和哉	片桐 順和	勝又 肇	加藤 至
加藤 武男	加藤 剛志	加藤 敏次	嘉鳥 信忠	門脇 哲郎
金澤 成行	金澤 浩之	金原 憲治	金山 岳夫	金子 剛
金子 裕一	上地 貴	上林 淑人	神谷 則昭	亀井 康二
亀山 誠	加茂 理英	河合 佳子	川上 重彦	川北 育子
川崎 裕史	川島 栄吉	川嶋 邦裕	河田 牧男	川手 浩史
川那部岳志	河野 克之	河村 進	川本 潔	河原崎彩子
神沢 敏	神田 郁乃	菊地 憲明	菊池 雄二	貴志 和生
岸 陽子	岸本 麻子	喜多 孝志	北澤 健	北野 幸恵
北原 正樹	北村 孝	木塚雄一郎	橘田絵里香	木下 浩二
木下 淳	木下 行洋	木股 敬裕	木村 正	木村 中
木村 得尚	行徳 博英	清川 兼輔	許田 和義	桐生 迪介
権 成基	楠本 健司	國重 義文	久保 和之	久保田潤一郎
熊谷 憲夫	倉田 利威	倉富 英治	栗田 昌和	栗原 邦弘
栗原 卓也	畔 熱行	黒川 憲史	黒川 正人	黒木 知明

黒木 知子	黒住 望	黒田 正義	郡司 裕則	毛山 章
小泉 拓也	古泉 佳男	光嶋 勲	河野 稔彦	古賀 雄二
黄金井 康巳	國分 一郎	心石 隆敏	小坂 正明	小坂 義樹
越川 真理	小島 正裕	小藺喜久夫	小平 聡	後藤 昌子
後藤 まゆき	此枝 央人	小林 一夫	小林 誠一郎	小林 貴
小林 正弘	小林 よう	小南 ちひろ	小宮 貴子	小宗 弘幸
米谷 あずみ	小屋 和子	近藤 奈穂子	近藤 方彰	権東 容秀
今野 宗昭	最所 裕司	斎藤 篤志	齊藤 計太	斉藤 浩
齋藤 昌美	佐伯 典道	佐伯 英明	坂井 重信	酒井 成身
酒井 直彦	酒井 倫明	坂井 靖夫	坂口 修平	阪口 昌子
崎戸 徹	佐久間 英夫	櫻井 淳	櫻井 伴子	桜井 信彰
櫻庭 実	佐々木 伊津美	佐々木 薫	佐々木 克己	佐々木 晴恵
佐々木 富美子	笹原 資太郎	笹本 良信	佐次田 保徳	佐藤 明男
佐藤 薫	佐藤 和夫	佐藤 克二郎	佐藤 兼重	佐藤 佳世
佐藤 誠	佐藤 真嘉	佐藤 実	佐藤 隆悟	佐野 新一郎
佐野 進	佐野 徹	澤田 正樹	澤村 武	塩沢 啓
塩谷 信幸	志賀 潤一郎	茂木 定之	重原 岳雄	設楽 幸伸
四宮 茂	柴田 実	渋谷 博美	島倉 康人	島中 弘輔
島本 良子	清水 梓	清水 サラ	清水 隆司	清水 弘則
清水 祐紀	庄野 佳孝	白石 知大	白壁 理志	白壁 征夫
白崎 祥晃	白澤 友裕	白土 基次	新富 芳尚	神野 千鶴
新橋 武	新濱 明彦	神保 好夫	新家 佳代子	末武 茂樹
末延 耕作	菅野 弘之	菅又 章	菅谷 文彦	梶谷 正子
杉野 宏子	杉山 敦樹	須澤 由希子	鈴木 茂彦	鈴木 収二
鈴木 敏彦	鈴木 肇	鈴木 晴恵	鈴木 偉彦	鈴木 康俊
鈴木 良典	鈴木 芳郎	須田 徹也	角谷 徳芳	関口 順輔
添田 周吾	袖井 文二	曾根 清昭	征矢 野進一	素輪 善弘
田井 良明	醍醐 佳代	高木 誠司	高木 正	高須 克弥
高田 章好	高田 温行	高田 裕子	高戸 毅	高成 啓介
高野 邦雄	高野 淳治	高野 敏郎	高橋 猛	高橋 信行
高橋 元	高橋 博和	高橋 誠	高橋 美有生	高松 亜子
高見 昌司	高見 佳宏	高柳 進	高山 正三	滝 建志
滝 正	竹市 夢二	竹内 ひろみ	竹下 由美子	武田 啓
武田 昇	竹本 剛司	太宰 聖志	田崎 幸博	多田 英之
龍見 良隆	田中 文	田中 一郎	田中 和行	田中 克己
田中 伸二	田中 真輔	田中 直樹	田中 均	田中 博
田中 義人	田中 里佳	棚平 晃	田辺 敦子	谷 祐子
谷口 靖	谷田 泰男	谷野 隆三郎	谷平 茂	田幡 雅彦
田原 真也	玉井 求宜	田牧 聡志	田村 明美	丹代 功
千明 美保	千葉 容子	陳 建穎	塚越 卓	月野 暁彦

辻口幸之助	辻田(久徳)美樹	津田 邦義	堤田 新	鶴切 一三
鶴田 純二	出口 正巳	手塚 敬	手塚 崇文	寺内 雅美
堂園 哲郎	當山 護	時岡 一幸	徳力 俊治	戸佐 真弓
戸島 康晴	戸田 千綾	戸田 則之	留守 祥子	友成 博
豊田 宜男	鳥居 修平	鳥飼 勝行	内藤 素子	永井 秀史
長江 浩朗	永尾 光一	長尾 聖子	中岡 啓喜	中川 達裕
中川 雅裕	中北 信昭	仲沢 弘明	中島 龍夫	長島 史明
中島 弓子	永瀬 洋	中田 元子	中塚 貴志	中西 秀樹
中西 雄二	中野 憲一	長野 哲也	中野 峰生	中野 基
永松 将吾	中村 潔	中村 雄幸	中山 凱夫	南雲 正人
並木 保憲	奈良崎保男	西 建剛	西井貴美子	西海 智子
西野 健一	西野 冽子	西平 智和	西堀 公治	西巻 啓子
西村 剛三	西村 正樹	塗 隆志	野崎 幹弘	野瀬 京子
野瀬 謙介	野田 宏子	野田 理香	野平久仁彦	野町 健
野村 智史	野村 正	野村 紘史	野本 猛美	芳賀 盛
橋川 和信	橋爪 慶人	橋本 二郎	橋本 信子	橋本 裕之
長谷川 隆	長谷川時生	長谷田泰男	服部こずえ	波床 光男
花垣 博史	華山 博美	浜口 雅光	浜崎多美子	濱中 孝臣
早川 宏司	林 礼人	林 大海	林 利彦	林 寛子
林 菜穂子	林 洋司	林 雅裕	林 道義	林 祐司
林 れい子	原 順子	原 舞	原 陽一郎	原口 彰
原口 和久	原科 孝雄	原島 要人	原田 和朋	波利井清紀
春成 伸之	伴 政雄	坂東 行洋	東山 卓嗣	東山 玲子
樋口 浩文	樋口 良平	彦坂 信	菱田 康男	備前 篤
樋上 敦	百束 比古	平 通也	平井 隆	平川 正彦
平瀬 雄一	平田 晶子	平野 明喜	平林 慎一	平本 道昭
平山 峻	夫 一龍	深江 英一	深水 秀一	福士 信哉
福嶋 佳純	福島 淳一	福積 聡	福屋 安彦	藤井 暁
藤井俊一郎	藤井 芳郎	藤岡 正樹	藤川 昌和	藤澤 大輔
藤田 浄秀	藤田 研也	藤田 晋也	藤田 忠義	藤田 祐子
藤林 久輝	藤森 靖	富士森良輔	藤山 忠昭	藤山 浩
藤原 修	藤原 一人	藤原 貴史	藤原 健志	藤原 敏宏
藤原 雅雄	舟山 恵美	古市 浩美	古川 晴海	古川 雅司
古田 文隆	古山 登隆	芳原 聖司	朴 修三	保阪 善昭
星 光聡	星野 恭子	細川 互	細谷 優子	堀尾 修
本庄 省五	本田 耕一	本田 隆司	本多 朋仁	本間 賢一
前島 精治	前田 健志	前田 求	牧野 久美	牧野 睦生
政田 佳子	増井 裕子	益岡 弘	増沢 源造	益田 俊明
増田 竜児	松井 厚雄	松井 潔	松浦慎太郎	松尾あおい
松尾 清	松尾 琴美	松尾 伸二	松岡 伯	松崎 恭一

松下 博明	松島 貴志	松田 和美	松田 和也	松田 健
松田 秀則	松谷 崇弘	松永 芳章	松林 薫美	松本 吉郎
松本 大輔	松本 敏明	松本 文昭	間藤 尚美	眞鍋 幸嗣
眞鍋 剛	丸山 成一	丸山 優	丸山百合子	三上 太郎
三嶋 修	水上健之亮	水谷 次郎	水野 清行	水野 寿子
水野 博司	三川 信之	皆川 浩	皆川 知広	湊 祐廣
峯岸 祐之	身原 弘哉	三宅伊豫子	三宅ヨシカズ	宮坂 宗男
宮里 修	宮下 協二	宮下 哲	宮島 哲	宮田 剛治
宮田 成章	宮田弥千代	宮永 亨	宮本 博子	宮本 洋
宮本 義洋	三好 研造	迎 伸彦	向田 雅司	村尾 尚規
村岡 道德	村上富美子	村上 隆一	村澤 章子	村下 一晃
村田八千穂	室 孝明	望月 靖史	望月 祐一	樫山 真紀
百澤 明	森 文子	森 成一郎	森 浩	森口 隆彦
森下 剛	守屋 修二	薬丸 洋秋	矢澤 真樹	安井 浩司
安田 浩	安田 勝	安田 幸雄	安富 義哲	矢高 森人
矢永 博子	柳澤 明宏	柳橋 亘	矢野 健二	矢野 浩規
山内 俊彦	山口 博	山崎 民雅	山路 佳久	山下 明子
山下 眞彦	山城 薫	山田 潔	山田 孝一	山田 信幸
山野 雅弘	山本 純	山本 博	山本 博	山本 正樹
山本真寿美	山本眞由美	山本 康	山元 康德	山本 有平
山本 慶輝	山本 喜英	山脇 聖子	山脇 吉朗	弓削 俊彦
横井 克憲	横尾 和久	横山統一郎	吉方 りえ	吉川 厚重
吉川 哲哉	吉澤 直樹	芳田 辰也	吉田 哲憲	吉田 豊一
吉田 太	吉次 興茲	吉永裕一郎	吉牟田浩一郎	吉村浩太郎
吉村 陽子	吉本 信也	依田 拓之	米田 敬	米原 啓之
寄藤 和彦	李 陽成	力久 直昭	若見 暁樹	脇坂 長興
脇田 進一	早稲田豊美	和田 秀敏	和田 仁孝	渡辺 克益
渡辺 頼勝				

以上 781 名（対象者 870 名）

**B) 日本形成外科学会専門医生涯教育制度細則第 11 条並びに専門医制度細則
第 29 条第 4 項により専門医資格を取り消される者**

秋山 正博	島田 健一	杉田 礼典	中木 義浩	南雲 正人
三宅 淳一				

(11) 皮膚腫瘍外科指導専門医の審査を皮膚腫瘍外科指導専門医認定委員会において行った。

平成26年度皮膚腫瘍外科指導専門医合格者氏名（50音順敬称略）

青木 恵美	大木 琴美	大澤 昌之	岡田 厚夫	川上 善久
川端 明子	五石 圭一	近藤 謙司	佐藤 誠	篠山 美香
芝岡 美枝	素輪 善弘	竹本 剛司	丹代 功	林 菜穂子
平田 晶子	増本 和之	南本 俊之	村尾 尚規	村松 英之
八木俊路朗	矢澤 真樹	吉田 哲也	吉牟田浩一郎	

以上 24名(応募者25名)

(12) 乳房増大エキスパンダー及びインプラント使用に関する実施医師の

審査をブレストインプラントガイドライン管理委員会において行った。

平成26年度実施医師登録者氏名（50音順敬称略）

饗場(小島)恵美子	浅野 裕子	阿部加代子	新井 雪彦	池田佳奈枝
井砂 司	石川 心介	磯野 伸雄	伊東 大	岩平 佳子
上野 輝夫	内田源太郎	江副 京理	戎谷 昭吾	遠所 瑞祐
大慈弥裕之	大城 貴史	奥田 良三	柏 克彦	北原 和子
小宮 貴子	小室 裕造	近藤 謙司	近藤 昭二	酒井 倫明
坂村 律生	桜井 信彰	佐々木 了	佐藤 伸弘	佐藤 英明
篠山 美香	島倉 康人	清水 隆司	白石 知大	菅 浩隆
鈴木 茂彦	高木美香子	瀧川 恵美	竹内 正樹	竹本 剛司
辻 直子	當山 護	中澤 学	中島 順子	中塚 貴志
永松 将吾	中屋敷典久	丹羽 幸司	沼尻 敏明	野中 大樹
野平久仁彦	原 伽倻	原 尚子	原岡 剛一	平川 正彦
廣川 詠子	父川 興一	福原 定子	藤田 龍哉	藤原 貴史
本田 隆司	松尾 伸二	松村 一	三鍋 俊春	三宅 順子
宮田 昌幸	宮本 純平	宮本 博子	安永 能周	矢野 智之
山川 知巳	山口 明伸	山口 悟	山下 理絵	山本 雅之
横川 秀樹	横山 明子	吉川 勝宇	吉村浩太郎	吉本 信也

以上 80名

(13) 乳房増大エキスパンダー及びインプラント使用に関する実施施設の

審査をブレストインプラントガイドライン管理委員会において行った。

平成26年度認定実施施設

【都道府県】

【施設名】

北海道	医療法人社団龍櫻会 札幌駅前さくら形成外科
北海道	KKR 札幌医療センター斗南病院
北海道	札幌道都病院
北海道	医療法人社団 蘇春堂形成外科
岩手県	岩手医科大学附属病院
埼玉県	埼玉医科大学総合医療センター
埼玉県	埼玉医科大学国際医療センター
千葉県	東京女子医科大学八千代医療センター
千葉県	新東京病院
千葉県	順天堂大学附属浦安病院
千葉県	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
東京都	医療法人社団ナグモ会 ナグモクリニック
東京都	東京医科大学病院
東京都	東京女子医科大学東医療センター
東京都	杏林大学医学部付属病院
東京都	医療法人社団ブレストサージャリークリニック
東京都	北里大学北里研究所病院
東京都	医療法人社団形成会 酒井形成外科
東京都	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター
東京都	昭和大学病院
東京都	東京女子医科大学病院
東京都	東京大学医学部附属病院
東京都	順天堂大学医学部附属順天堂医院
東京都	医療法人社団慶光会 大城クリニック
神奈川県	湘南鎌倉総合病院
神奈川県	セルポートクリニック横浜
神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
神奈川県	北里大学病院
新潟県	新潟大学医歯学総合病院
長野県	伊那中央病院
岐阜県	社会医療法人厚生会 木沢記念病院
静岡県	独立行政法人労働者健康福祉機構 浜松労災病院

静 岡 県	富士市立中央病院
愛 知 県	ナグモクリニック名古屋
京 都 府	京都府立医科大学附属病院
京 都 府	ヴェリィ形成クリニック
京 都 府	京都大学医学部附属病院
大 阪 府	社会医療法人大道会 森之宮病院
大 阪 府	医療法人ガクト会 ナグモクリニック大阪
大 阪 府	地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院
大 阪 府	市立岸和田市民病院
岡 山 県	川崎医科大学附属病院
広 島 県	医療法人宮本形成外科
広 島 県	県立広島病院
香 川 県	四国こどもとおとなの医療センター
福 岡 県	福岡大学病院
沖 縄 県	医療法人形成会 当山美容形成外科

（14）平成２７年度評議員選挙を行った。

平成２７年度評議員選挙管理委員会

委員長：石川 心介

副委員長：山岡 尚世

委員：井田夕紀子 伊東 大 梅川 浩平 北山 晋也

 館下 亨 備前 篤 築 由一郎

予備委員：植村 法子 檉村 勉 栗田 昌和 土佐眞美子

計５回の委員会を開催し、定款並びに評議員選挙施行細則に基づき選挙を行った。
開票の結果、下記１５０名の新評議員を決定した。

【北海道・東北選挙区（定数１２名）】

飯田 直成	今井 啓道	上田 和毅	漆館 聡志	柏 克彦
木村 中	小林誠一郎	館 正弘	野平久仁彦	古川 洋志
山本 有平	四ツ柳高敏			

【関東選挙区（定数６６名）】

相原 正記	赤松 正	秋月 種高	秋元 正宇	朝戸 裕貴
阿部浩一郎	井砂 司	市岡 滋	伊藤 芳憲	今井龍太郎
岩波 正陽	宇田川晃一	大浦 紀彦	大久保文雄	大城 貴史
大西 清	岡崎 睦	小川 令	梶川 明義	門松 香一
金子 剛	貴志 和生	清澤 智晴	倉片 優	光嶋 勲

河野 太郎	小室 裕造	櫻井 裕之	櫻庭 実	佐武 利彦
佐藤 兼重	澤泉 雅之	島倉 康人	清水 祐紀	関堂 充
副島 一孝	多久嶋亮彦	竹内 正樹	武田 啓	田中 一郎
土佐 泰祥	仲沢 弘明	中塚 貴志	二ノ宮邦稔	根本 充
野嶋 公博	林 明照	林 礼人	平林 慎一	福積 聡
福本 恵三	前川 二郎	松浦慎太郎	松田 健	松村 一
水野 博司	三川 信之	三鍋 俊春	宮坂 宗男	宮脇 剛司
村上 正洋	森 弘樹	八巻 隆	山下 理絵	吉村浩太郎
吉本 信也				

【中 部 選 挙 区（定数 17 名）】

岩澤 幹直	奥本 隆行	加藤 久和	亀井 譲	川上 重彦
岸邊 美幸	島田 賢一	高成 啓介	鳥山 和宏	中川 雅裕
中西 雄二	深水 秀一	藤原 雅雄	松尾 清	杠 俊介
横尾 和久	吉村 陽子			

【関 西 選 挙 区（定数 27 名）】

石川 浩三	磯貝 典孝	伊藤 文人	今井 啓介	上田 晃一
大守 誠	岡田 雅	垣淵 正男	片岡 和哉	河合 勝也
久徳 茂雄	楠原 廣久	楠本 健司	久保 盾貴	鈴木 健司
鈴木 茂彦	寺師 浩人	富田 興一	内藤 素子	西本 聡
野村 正	橋川 和信	細川 互	元村 尚嗣	森本 尚樹
矢野 健二	義本 裕次			

【中国・四国選挙区（定数 12 名）】

青木 久尚	安倍 吉郎	稲川 喜一	戎谷 昭吾	木股 敬裕
木村 得尚	田中 嘉雄	中岡 啓喜	難波祐三郎	橋本 一郎
原田 浩史	横田 和典			

【九州・沖縄選挙区（定数 16 名）】

上村 哲司	大慈弥裕之	門田 英輝	菊池 守	清川 兼輔
古賀 憲幸	小藺喜久夫	清水 史明	高木 誠司	田中 克己
藤岡 正樹	迎 伸彦	森岡 康祐	安田 浩	矢野 浩規
力丸 英明				

(15) 各種委員会報告

1) 財務委員会

委員長：鈴木 茂彦

委員：亀井 譲、佐藤 兼重、細川 亙、山本 有平

開催年月日：メール委員会

主な議題：1. 平成 26 年度収支決算
2. 平成 27 年度予算案

活動の概要：1. 平成 26 年度収支決算、平成 27 年度予算案について確認を行った。

2) 専門医認定委員会

委員長：細川 亙

担当理事：中塚 貴志

委員：岩澤 幹直、上田 晃一、大慈弥裕之、岡崎 睦、垣淵 正男、
河合 勝也、楠本 健司、櫻井 裕之、佐藤 兼重、清水 祐紀、
館 正弘、田中 克己、橋本 一郎、水野 博司、宮坂 宗男、
宮脇 剛司、四ツ柳高敏

開催年月日：①平成 26 年 11 月 29 日、②平成 27 年 1 月 23～24 日

主な議題：1. 専門医申請者の資格審査
2. 専門医認定審査
3. 審査法の検討

活動の概要：1. 平成 26 年度の専門医申請者 115 人に対し、平成 26 年 11 月 29 日にホテルグランドヒル市ヶ谷にて提出書類に基づく審査を行った。研修期間に不足がないか、規定に則った記載がなされているか、虚偽の記載がないか、などを中心に審査をおこなった。

最終的に書類審査での判定は合格（減点なし）107 名、合格（減点 1）5 名、不合格 3 名となった。

2. 書類審査合格者 112 名に対し、平成 27 年 1 月 23～24 日にホテルニューオータニにて筆記試験および口頭試問による審査を行った。筆記試験問題の一部は問題集から改変して出題した。また、記述式問題を 1 問出題し、総合判定の際の参考資料とした。

筆記試験の結果は、最高点 99 点、平均 89.5 点であった。

3. 合否基準に関しては、書類審査の減点、筆記試験、口頭試問による総合評価とした。審査の最終結果は以下のごとくであった。

専門医審査申請者：115 人

資格（書類）審査不合格者：3 人

筆記・口頭試問不合格者：10 人 欠席者：3 人

専門医試験合格者：99 人

合格率：88.4% (99/112)

なお、欠席の方 1 名は臨月により（産科の主治医からの診断書付き）、

欠席されたため、前例にしたがい、次期専門医試験書類審査の免除を承認した。但し、次回の専門医認定審査まで事務局で預かり、差し替えの際は再度専門医書類審査を受験頂くことにし、それを通知した。

4. 以下 1)～3)の通り、手引きに追加することになった。

1) 「入会前の形成外科研修を研修歴に含めることはできません」

手引きには「正会員歴の年限は【入会日～書類提出締切日(2014年11月10日)までの期間】で算出して下さい。(入会日は入会申込書提出後、直近の理事会開催日となりますのでご注意ください。)」と記載があるが、専門医制度細則、手引きにも形成外科研修は入会してからカウントするという文言はない。次回手引きに「入会後から形成外科研修である」ことを明記することにした。

2) 「入会前に掲載された論文は対象外となります」

提出論文が入会前のものを提出している受験者がいたが、前回審査で問題視はされず書類審査を通っている。論文の内容については形成外科的なもので問題はない。次回以降は入会後の論文を提出することを手引きに明記し、受験者にも注意喚起した。

3) 「同時期に複数の施設で研修していたとする研修歴は認められません」

研修歴に重複がある申請者があり、従たる施設の症例を提出したことになるため、重複期間の1症例を除いて判断した。提出された症例のうち、従たる施設と判断された施設で行われた症例はカウントしないことになった。

但し、今後、同一研修期間において複数施設での症例が提出されることを防ぐため、「従たる施設」での症例でなく「主たる施設」での症例のみ提出することを厳守することについて確認がされた。

3) 専門医生涯教育委員会

委員長：田中 嘉雄

委員：秋元 正宇、飯田 直成、岡田 雅、木村 得尚、久徳 茂雄、
竹内 正樹、内藤 素子、中岡 啓喜、中束 和彦、西村 剛三、
松村 一、迎 伸彦、森 弘樹

開催年月日：平成27年2月15日（更新審査委員会）

その他、適宜メール委員会

主な議題：1. 専門医資格更新審査

2. 委員会承認の学術集会・研究会等の更新審査

3. 学術集会・研究会等の新規登録申請の審査

4. その他

活動の概要：1. 専門医資格更新審査

i) 専門医資格更新審査対象者は725名で、更新を承認された者は

661 名（その内、書類不備により返却し追加書類などの提出により更新を認めたもの 18 名）、追加書類など提出しても条件を満たさず更新を認めなかったもの 4 名、留保 14 名（申請者 16 名）、未提出 42 名、更新辞退 4 名であった。

ii) 専門医資格更新審査の 65 歳以上対象者は 145 名で、更新を承認された者は 120 名（その内、診療実績記録など再提出を求め、再提出により更新を認めたもの 9 名）、未提出 23 名、更新辞退 2 名であった。

iii) 留保願いは 16 名で、14 名の留保が 1 年認められた。

iv) 締め切り後の書類提出、参加章を台紙に貼付せず提出、締め切り後に審査料入金など、合計 14 名に警告文を送付した。

2. 委員会承認の学術集会・研究会等の更新審査

更新対象の関連学会・研究会等 52 件につき、3 年分のプログラムを確認し、40 件の更新を承認した（内 4 件には警告/勧告文を送付し、1 件に提出を求めた）。また、関連学会の地方会は 10 件の更新を確認した。

3. 学術集会・研究会等の新規登録申請の審査

学術集会、研究会の新規登録申込が「日本下肢救済・足病学会北海道地方会」「川崎医科大学形成外科同門会学術集会」「南大阪 Surgical Flaps」、「Congress of the Asian Pacific Craniofacial Association」の 4 件あり、承認し、点数を付与した。承認された研究会および点数は会告に掲載予定。

4. その他

更新の手引きにいくつかの不備があり修正した。

4) 専門医試験問題作成委員会

委員長：吉本 信也

委員：青木 久尚、伊藤 文人、伊藤 芳憲、今川孝太郎、大浦 紀彦、大竹 尚之、柏 克彦、門松 香一、岸邊 美幸、黒木 知明、桑原 理充、小藺喜久夫、佐武 利彦、谷口 泰徳、土佐 泰祥、中井 國博、野村 正、福屋 安彦、矢野 浩規、山元 康德、杠 俊介、横田 和典、米田 敬

開催年月日：メール委員会 数回

活動の内容：昨年に引き続き、試験問題の解説および新作問題、図付き問題の作成を行った。

本年は、約 750 題に解説を付け、新作問題、図付き問題を各 30 問ずつ作製した。又、不適当と思われる問題の見直しも行った。

現在、CD 作製会社で編集中である。

5) 認定施設認定委員会

委員長：清川 兼輔

委員：木股 敬裕、木村 中、菅原 康志、多久嶋亮彦、田中 一郎、
西野 健一、深水 秀一

開催年月日：①平成 26 年 4 月 10 日

②平成 27 年 2 月 16 日：2014 年度認定施設認定委員会

主な議題：1. 認定施設および教育関連施設の更新認定と新規認定審査

2. 形成外科としての独立が不明瞭な施設についての検討

活動の概要：1. 本年度の認定施設・教育関連施設の更新および各新規申請の審査結果は次の通りである。

i) 認定施設更新申請は 304 であり、うち 294 が更新認定された。6 施設は教育関連施設への転換となった。4 施設は資格取り下げとなった。

ii) 教育関連施設更新申請は 179 施設であり、うち 145 施設が更新認定された。13 施設は認定施設への昇格が承認された。21 施設は資格取り下げとなった。

iii) 新規認定施設申請は 16 施設であり、うち 14 施設が認定された。
新規教育関連施設申請は 26 施設であり、うち 24 施設が認定された。

2. 形成外科としての独立が不明瞭な施設について

まず 2013 年度の審査で独立性に疑問があった 2 施設（奈良県立医科大学附属病院形成外科、愛媛大学医学部附属病院形成外科）については、独立を証明する証拠提出があり、認定施設として認定された。

2014 年度の独立が不明瞭な 6 施設（①山形大学医学部附属病院形成外科、②山口大学医学部附属病院形成外科、③福井大学医学部附属病院形成外科、④広島大学病院形成外科、⑤九州大学病院形成外科、⑥熊本大学医学部附属病院形成外科）については、1) 明らかに独立していることが分かる「形成外科の売上表」などの資料、2) 病院の組織図、3) 「診療責任者が診療科（形成外科）の科長であること」の証明書、の 3 点について追加資料の提出を求めた。その結果、③～⑤の 3 施設は認定施設として認定された。しかし、追加資料を提出できなかった①②⑥の 3 施設は教育関連施設として認定されなかった。

5-i) 研修プログラム作成部会

部会長：清川 兼輔

委員：多久嶋亮彦、田中 一郎、西野 健一、深水 秀一

開催年月日：①平成 26 年 4 月 10 日、②平成 26 年 10 月 10 日その他適宜メール委員会

主な議題：形成外科専門医研修カリキュラムならびに研修プログラムの作成

活動の概要：形成外科専門医研修カリキュラム（案）ならびに研修プログラム（案）

を作成し、日本専門医機構へ提出した。その結果、日本専門医機構より仮採用が認められ、現在は追加の 4 項目（評価シート、専攻医研修マニュアル、指導者マニュアル、専攻医研修実績記録フォーマット）について作成中である。

6) 学術委員会

委員長：柴田 実

委員：秋田 定伯、秋月 種高、安藤 和正、市岡 滋、稲川 喜一、
岡崎 睦、小川 令、光嶋 勲、櫻井 裕之、菅原 康志、
高木 誠司、武田 啓、永竿 智久、西本 聡、橋川 和信、
福本 恵三、松浦慎太郎、松田 健、山脇 吉朗、杠 俊介、
横田 和典

開催年月日：①平成 26 年 4 月 9 日、②平成 26 年 10 月 9 日、メール委員会随時

主な議題：1. 平成 26 年度春季学術講習会の件

2. 平成 26 年度秋季学術講習会の件

3. 平成 26 年度学術奨励賞

活動の概要：1. 平成 26 年 4 月 8 日(火)長崎ブリックホールにおいて平成 26 年春季学術講習会を「専門医認定審査受験生に向けて」「保険診療」「先天異常」「医療安全」のテーマで開催した。参加申し込み 282 名、完全受講者 277 名であった。

2. 平成 26 年 10 月 8 日(水)松本キッセイ文化ホールにて平成 26 年秋季学術講習会を「創傷治癒」「外傷」のテーマで開催した。参加申し込み 227 名、完全受講者 221 名であった。

3. 平成 26 年度学術奨励賞は、機関誌以外部門からの公募で、計 17 編(基礎部門 10 編、臨床部門 7 編)の応募があった。候補論文 4 編(基礎部門 2 編、臨床部門 2 編)と機関誌編集委員会より選定された機関誌部門候補論文 4 編(基礎部門 2 編、臨床部門 2 編)の、合わせて 8 編を理事会に上申し、以下の 4 編が学術奨励賞に決定した。

《学術奨励賞》

【基礎部門】

石川 心介 氏 北里大学形成外科

『Effects of neuropeptides and their local administration to cutaneous wounds in sensory-impaired areas.』

Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery. 2014;Vol. 48(2):143-147.

菅 浩隆 氏 杏林大学形成外科

『Tracking the elusive fibrocyte: identification and characterization of collagen-producing hematopoietic lineage cells during murine wound healing.』

Stem Cells. 2014;Vol. 32(5):1347-1360.

【臨床部門】

朴 修三 氏 静岡県立こども病院形成外科

『口蓋裂術後の長期言語成績 ―4 歳から 16 歳までの言語成績の変化と 16 歳時の言語成績について―』

日本形成外科学会会誌 2014;Vol. 34(2):92-97.

橋本 一郎 氏 徳島大学形成外科

『The internal pudendal artery perforator flap: free-style pedicle perforator flaps for vulva, vagina, and buttock reconstruction.』

PRS. 2014;Vol. 134(5):880-891.

6-i) ガイドライン作成部会

部 会 長：清川 兼輔

委 員：秋田 定伯、大城 貴史、柏 克彦、菊池 雄二、関堂 充、
寺師 浩人、土佐 泰祥、三鍋 俊春

開催年月日：平成 26 年 4 月 11 日（金）（第 57 回日本形成外科学会総会開催時）

主な議題：ガイドライン作成の進捗状況について報告

メール委員会（頻回）：

1. 委員への案配信および意見徴収、統括責任者への差し戻しおよび修正依頼

2. 理事会でガイドライン案の検討および承認

開催年月日：平成 26 年 10 月 9 日（金）（第 23 回日本形成外科学会基礎学術集会）

主な議題：ガイドライン作成の進捗状況と冊子体作成の今後の予定について報告

メール委員会（頻回）：

1. 未完成ガイドラインの委員への案配信および意見徴収、統括責任者への差し戻しおよび修正依頼

2. 理事会でガイドライン案の検討および承認

3. 冊子体作成と金原出版との契約について

6-ii) 用語部会

部 会 長：柴田 実

委 員：久徳 茂雄、清澤 智晴、鳥山 和宏、永竿 智久、野瀬 謙介、
松村 一

開催年月日：平成 26 年 4 月 11 日

活動の概要：用語集について：日本医学会用語事典の和英辞書から入って使用してもらっているが用語委員会に対する質問、提案はなかった。

活動方針：試用期間が十分経過したので、現状の使用方で問題は少ないものと思われるが新語および未掲載用語の追加、既形成用語についての誤りの検討を行う時期に来ていると考えられる。次期委員会にアンケート調査・用語の追加、検討をお願いしたい。

7) 機関誌編集委員会

委員長：上田 和毅

担当理事：小林誠一郎

委員：朝村 真一、石田 有宏、市岡 滋、稲川 喜一、今井 啓介、
上村 哲司、漆館 聡志、大城 貴史、大西 清、岡崎 睦、
小川 令、柏 克彦、小室 裕造、島田 賢一、関堂 充、
館 正弘、田中 克己、鳥山 和宏、中川 雅裕、永竿 智久、
野平久仁彦、橋川 和信、林 明照、深水 秀一、古川 洋志、
朴 修三、本田 隆司、村上 正洋、森本 尚樹、横尾 和久、
吉村浩太郎、四ツ柳高敏、渡辺 克益

開催年月日：平成 26 年 4 月 11 日（金）

平成 26 年 10 月 10 日（金）

以下メール編集委員会

平成 26 年 9 月 5 日（金）、9 月 19 日（金）、9 月 30 日（火）、

平成 27 年 1 月 7 日（水）、2 月 3 日（火）、2 月 17 日（火）

活動の概要：1. 投稿論文進捗状況 平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日

①投稿数 83 篇(原著 18、短報 2、症例 61、総説 1、投書 1)

②掲載決定 39 篇(原著 9、短報 1、症例 29)

③進行中 19 篇(原著 4、症例 14、投書 1)

④待機中 2 篇(原著 1、症例 1)

⑤却下 13 篇(原著 2、短報 1、症例 10)

⑥取り下げ 10 篇(原著 2、症例 7 (うち原稿不備 4)、総説 1)

2. 多重投稿に関して

①多重投稿に関する規定第 6 案が平成 27 年 2 月 27 日の理事会で承認された。

②多重投稿の疑いがあるとして挙げられた論文を検討し、第 6 案に当てはめれば多重投稿の疑いがあることを報告した。

3. 平成 26 年度学術奨励賞候補論文として日形会誌 (Vol. 34 No. 1～12) から 2 篇、JPSHS (Vol. 48 No. 1～No. 6) から 2 篇、計 4 篇*を学術委員会へ推薦した。

*日形会誌から推薦のうち 1 篇は、第 1 報と第 2 報をあわせて 1 篇として報告した。

4. 全ページカラー化について

Vol. 35 No. 1 から全ページをコート紙に統一して、学会負担でのカラー印刷が施行された。

5. Medline への掲載申請について

平成 26 年 4 月上旬、9 月上旬に審査状況を問合せ、不採用の通知を受領した。9 月下旬に不採用理由を問合せ、平成 27 年 1 月下旬に回答があった。

6. 投稿・査読システム「誓約書」アップロード機能追加について

「誓約書」ファイルアップロード機能追加のための予算が平成 27 年 2 月 27 日の理事会において承認された。

8) 渉外・広報委員会

委員長：山本 有平

委員：赤松 正、朝戸 裕貴、今井 啓道、小山 明彦、鈴木 健司、
中川 雅裕、橋川 和信、三鍋 俊春、元村 尚嗣、森 弘樹、
安田 浩、矢野 健二

開催年月日：メール委員会数回

活動の概要：1. HP に関するバナー広告管理や転載許可申請管理
2. 学会誌ニューズレター内容の管理
3. 報道機関向け話題提供の会の開催

9) 国際委員会

委員長：中塚 貴志

委員：佐藤 兼重、鈴木 茂彦、中西 秀樹、百束 比古

開催年月日：①平成 26 年 4 月 11 日、②平成 26 年 10 月 9 日、適宜 e-mail 委員会

主な議題：1. 国際形成外科学会(IPRAS)の現状について
2. アメリカ形成外科学会(ASPS)との連携について
3. 国際会議の広報について
4. 関連学会(ISAPS、日韓・日中形成外科など)について

活動の概要：1. IPRAS に関する情報の収集と理事会への報告
2. ASPS からの提案に関する情報の収集と理事会への報告
3. 広報などを通じた関連国際会議への支援

付 記：1. 4 月 25 日(土)、26 日(日)に開催される新国際学会立ち上げの会議(フランクフルト)に中塚が出席予定
2. 今総会中に、A S P S と M O U を締結予定(ASPS 側は PSF President の Dr. Nicholas Vedder が調印のため来日予定)

10) 社会保険委員会

委員長：金子 剛

委員：相原 正記、井砂 司、井上要二郎、宇田川晃一、大久保文雄、
大城 貴史、大西 清、荻野 浩希、垣淵 正男、川嶋 邦裕、
小室 裕造、島田 賢一、関口 順輔、関堂 充、土井 秀明、
鳥山 和宏、難波祐三郎、二ノ宮邦稔、野村 正、前川 二郎、
村上 正洋、村上 隆一、矢野 健二

開催年月日：①平成 26 年 4 月 10 日(全体)、②平成 26 年 10 月 1 日(在京)
③平成 26 年 10 月 10 日(全体)、④平成 26 年 11 月 26 日(在京)
⑤その他 適宜 e-mail 委員会

活動の概要：1. 平成 28 年度診療報酬改正要望について
①次期改正における新設・改正項目

会員アンケートを元に委員会で検討し、以下の項目とした。

新設：8 項目

自家脂肪移植術

対側乳房縮小・固定術（反対側乳房再建後）

指皮膚皮下腫瘍摘出術

ICG による赤外線蛍光リンパ管・リンパ節造影

創傷処理（重症顔面軟部組織損傷）

乳房縮小術（性別適合手術におけるもの）

陰茎再建術（尿道再建を伴うもの）

人工乳房抜去術

改正：5 項目

画像等手術支援加算 2. 実物大臓器実体モデルによるもの：増点

軟部腫瘍摘出術（頭頸部）：小項目の新設

皮膚皮下腫瘍摘出術（露出部、12cm 以上）：小項目の新設

創外固定加算：対象手術の拡大

毛巣嚢、毛巣瘻、毛巣洞手術：増点

医療材料：なし

②今後の予定

4 月中に診療報酬新設・改正要望書を外保連に提出し、厚労省に要望を行う予定。

2. 外科系学会保険委員会連合（外保連）関連

外保連委員

以下のように委員会に所属して活動を行った。

手術委員会：関堂委員、二ノ宮委員

（手術委員会）コーディングワーキンググループ：相原委員

（手術委員会）医療材料・医療機器ワーキンググループ：前川委員、委員長

（手術委員会）医療技術の新しい評価軸検討ワーキンググループ：関堂委員 新しい WG を立ち上がり、これまでの外保連方式と異なる医療技術の評価について検討を開始した。

処置委員会：大城委員、小室委員、荻野委員

検査委員会：二ノ宮委員、荻野委員

実務委員会：関堂委員

3. 日本医師会疑義解釈委員会・保険適用検討委員会関連

委員長が委員として参加している。本年度は形成外科関連の案件はない。

4. 先進医療・高度医療関連

委員長が任期の 10 年を終了したため退任した。

5. DPC 関連

MDC16 班の班長（形成側）が日本医科大学千葉北総病院秋元正宇先生に交代したため、新たに社保委員として参加していただくこととなった。

本年度も様式 1 の見直し案の検討の依頼があり、横断的検討のため以下の様に分担して検討した。MDC16 については意見提出を行った。

MDC2 眼：大久保委員

MDC3 耳鼻科：村上委員

MDC7 筋骨：二ノ宮委員

MDC8 皮膚：相原委員（班員）

MDC9 乳腺：矢野委員

MDC14 先天異常：宇田川委員

MDC16 外傷：秋元委員（班長）、委員長（班員）、井砂委員（班員）

6. 日本小児期外科系関連学会協議会（JPASS）関連

委員長と鈴木啓之先生（社保委員外、千葉こども病院）の 2 名が参加している。次回新設・改正要望項目には小児関連の技術は含まれていない。

7. 疑義解釈、診療報酬審査上の問題点への対応

①乳房関連 Q&A（案）、疑義解釈（案）の検討

関堂委員より乳房関連 Q&A（案）の提示があり検討を行った。今後厚労省保険局医療課とも相談する予定である。

②審査上の問題点について

審査委員である委員から最近目につく審査上の問題点について提示があり検討した。

8. 広報活動

①第 57 回日本形成外科学会学術集会において特別企画を行った。

日時：平成 26 年 4 月 11 日（金）8:00～8:50

テーマ：平成 26 年度診療報酬改定について-厚労省のめざす診療報酬のありかたと形成外科への影響

演者：宇田川委員、関堂委員

司会：大西委員、金子委員長

②平成 26 年度形成外科診療報酬早見表については、ワードファイル、PDF ファイルを学会ホームページに掲載した。また、長崎大学形成外科平野明喜教授（第 57 回日本形成外科学会会長）のご厚意で学会より冊子として刊行された。

③診療報酬についてのアンケートを、平成 24 年 10 月に、評議員、認定施設、教育関連施設を対象に行った。

9. その他

①医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望

頭位性斜頭に対する頭蓋形状誘導ヘルメットについては、PMDA より医療機器クラス 1 に該当するという評価になった。名称等について協議中とのことである。

②トラニラスト（フィブラストスプレー®）の新鮮熱傷に対する適応について、科研製薬と協議を行った。

1 1) 倫理委員会

委員長：小林誠一郎

委員：岩波 正陽、内田 満、楠本 健司、鈴木 健司、
内藤 素子、吉村 陽子

外部委員：北河 隆之、中木 敏夫、松本 邦裕

開催年月日：①平成 26 年 4 月 23 日（メール委員会）

②平成 26 年 10 月 10 日

主な議題：1. 日本形成外科学会疾患登録システム計画書の審査

2. 二重投稿に係る処分についての意見交換

活動の概要：1. 日本形成外科学会疾患登録システム計画書については、持ち回り審議により、一部修正を加え承認とした。

2. 二重投稿についての弁明書ならびに理事会処分について意見交換を行った。

和文論文を英文論文として投稿するに際しては、施設間で、要件に関する認識の相違がある。今後は投稿規定の改正等により二重投稿の判断基準が明確になるものと思われるなどの意見があった。

1 1-i) 利益相反部会

部長：田中 嘉雄

委員：内田 満、久徳 茂雄、角谷 徳芳

外部委員：北河 隆之

活動の概要：1. 役員、学会長、各種委員会委員長などへ自己申告書を送付した。

2. 自己申告書の回収状況を調査し、未提出者には再送付した。

4. 日本医学会分科会利益相反会議に出席した。

5. 「日本医学会 118 分科会における医学研究に係る利益相反（COI）対応の現状」—アンケート調査への回答を行った。

6. 利益相反に関する指針・細則改定案について検討し、追記または変更案を策定した。

1 2) 制度検討委員会

委員長：仲沢 弘明

委員：朝村 真一、武石 明精、本田 隆司、村上 正洋、森岡 康祐

開催年月日：第 1 回メール委員会 平成 26 年 5 月 19 日

第 2 回メール委員会 平成 26 年 9 月 11 日

第 3 回メール委員会 平成 27 年 2 月 10 日

主な議題：二重投稿罰則規定（案）の作成について

以下の罰則規定（案）を平成 27 年 2 月 27 日理事会で答申した。

■二重投稿に対する罰則規定（案）

1. 当該投稿論文を、即時、不採録とする。

2. 筆頭著者に対し、今後 2 年以上、本学会誌への投稿を禁じ、向こ

う 1 年以上の本学会会員資格を停止する。

3. 共著者に対し、今後 1 年以上、本学会誌への投稿を禁ずる。

4. 第 2 号及び第 3 号の投稿停止期間と会員停止期間については理事会で決定する。

5. 掲載後に発覚した場合は、掲載取消の周知文を論文誌および学会ホームページに掲載する。

開催年月日：第 3 回メール委員会 平成 27 年 2 月 10 日

主 な 議 題：懲罰に関する規定（案）の作成について

以下の懲罰規定（案）を平成 27 年 2 月 27 日理事会で答申した。

■一般社団法人日本形成外科学会会員の懲罰に関する規定（案）

（目的）

第 1 条 この規定は定款第 9 条及び第 10 条、定款細則第 8 条に基づき会員の懲罰に関し必要な事項を定める。

（懲罰の種類等）

第 2 条 会員に課す懲罰処分は、以下の各号に掲げる通りとする。

1. 訓戒 口頭にて将来を戒める。
2. 訓告 文書にて将来を戒める。
3. 譴責（けんせき） 始末書を提出させ、将来を戒める。
4. 専門医資格の停止 相当な期間を定めて専門医の資格を停止する。
5. 会員資格の停止 相当な期間を定めて資格を停止する。
6. 除名 会員としての資格を喪失する。

（1）第 5 号に該当する者は、会員資格停止の期間中についても本法人の会費を納入しなければならない。また、会員資格停止中に退会した者は、本法人に再入会することはできない。

（処分の対象）

第 3 条 理事会は、次の各号に掲げる行為をなした会員を懲罰処分の対象とすることができる。

1. 研究者あるいは医師としての社会的モラルや品位にかける行為であり、それが本法人の名誉および社会的信用に影響を及ぼすおそれがある行為。
2. 反社会的または刑罰法令に触れる行為であり、それが本法人の名誉および社会的信用に影響を及ぼすおそれがある行為。
3. その他、本法人の名誉を毀損し、社会的信用を失墜させる行為。

（1）理事会は、前項に記載する行為により懲罰処分に賦された会員の当該行為に関し監督指導をなすべき職にある会員に対し、その職責の見地から、その内容、程度、状況に応じて懲戒処分の対象とすることができる。

（処分の決定）

第 4 条 理事会は、第 3 条に規定する行為をなした疑いのある会員の存在が判明したときは、直ちに当該行為に係わる調査特別委員会を

設立し、その事実の有無、内容、程度、状況等を調査させなければならない。

2. 理事会は、調査結果に基づき、第2条各号の中からその一つあるいは二つを併せて処分を決定する。
3. 第2条第4号および第5号の処分期間は、理事会で決定する。
4. 第2条第4号から第6号の処分を決定するときは、処分決定前に理事会において当該会員に弁明の機会を与えなければならない。
5. 会員に対する処分の決定は、会員総会の議決を経なければならない。ただし、第2条第1号から第3号に該当する処分を決定するときは、状況に応じて会員総会の議決を省略することができる。
6. 本条第1項の調査委員会については、別に内規を定める。

(勧告)

第5条 理事会は、第2条第4号から第6号に掲げる会員処分に該当する者に、会員総会の議決を得るまでの間、当該会員に対し、会員総会で諮られる処分に相当する自肅を勧告することができる。

2. 前項に定める理事会の勧告を受け入れた者の処分期間には、勧告を受け入れた日から会員総会での決定までの期間を算出することができる。

(規定の改廃)

第6条 この規程の改廃は、理事会にて行う。

附則

1. 本規定は、2015年〇月〇日より施行する。

13) 企画調査委員会

委員長：貴志 和生

委員：秋田 定伯、岸邊 美幸、佐々木 了、菅原 康志、寺師 浩人、
三川 信之、力丸 英明

開催年月日：メール委員会を適宜行った。

主な議題：1. 平成26年度科学研究費の申請状況ならびに採択状況
2. DBのデータ提供依頼について、個別に検討

活動の概要：1. 申請(採択)状況につき、形成外科医育施設を中心とした68施設にアンケート調査を行い、57施設から回答が得られた。アンケート結果では、平成26年度の新規申請件数は185件で前年度とほぼ同数、新規採択数は70件で、前年度に比べ増加傾向にあった。本結果は、日本形成外科学会ホームページ上に公開した。今後も調査を行う予定である。

2. DBのデータ提供依頼が4件あった。個別にメール委員会で検討して、対応した。

13-i) データベース管理部会

部 会 長：前川 二郎

担 当 理 事：貴志 和生

委 員：赤松 正、石田 有宏、今井 啓道、大久保文雄、金子 剛、
木股 敬裕、高木 誠司、根本 充、橋本 一郎、廣富 浩一、
宮脇 剛司、村上 隆一、山野辺裕二、山元 康德、義本 裕次

開催年月日：全 体 会 議：①平成 26 年 4 月 9 日、②平成 26 年 6 月 13 日、
③平成 26 年 8 月 7 日、④平成 26 年 8 月 29 日、
⑤平成 26 年 10 月 9 日

e-mail 委員会：多数回

主 な 議 題：1. システムの大改定（次期データベースシステムの仕様）
2. 研究計画書の改定・更新
3. Kコードの変更にともなうマスターの変更

活動の概要：1. 4 月～6 月：学会倫理委員会への申請了承を経た研究計画書（第 2 版）
を各施設へ配布
2. 6 月～8 月：NCD（National Clinical Database）開発運営担当者との
意見交換
3. 12 月：Kコード変更を反映させた疾患登録システム ver1.07 を配布
：疾患登録システム計画書（第 2 版）のアップデート
4. 27 年 4 月：総会にて DB 管理部会報告
・ 130 万件（4 年分）解析・検証結果
・ 今後のデータベース利用法や NCD について 等

5. 26 年次施設認定における D B 提出状況 (H27. 3. 13 まで)

		2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
認定施設申請数	A	274	287	293	304
DB 提出施設数	B	273	284	292	302
DB 未提出施設数	C	1	3	1	2
DB 導入率 (%)	B/A	99. 6	99. 0	99. 7	99. 3
教育関連施設申請数	D	163	160	170	179
DB 提出施設数	E	159	157	168	171
DB 未提出施設数	F	4	3	2	8
DB 導入率 (%)	E/D	97. 5	98. 1	98. 8	95. 5
全施設 DB 導入率 (%)	B+E/A+ D	98. 9	98. 7	99. 4	97. 9
未提出の理由と対処					
紙ベースで提出		2	1	0	0
更新しないため未提出		3	5	3	10

6. 次期データベースシステム開発準備

- ・データベース入力 Web 上で行う
- ・「専門医申請」への利用

7. 今後の重要点

- ・NCD の導入による経費、維持費の検討
- ・現行システムのバージョンアップ、データの還元

1 4) 将来計画委員会

委員長：亀井 譲

委員：朝戸裕貴、井砂 司、上田晃一、大慈弥裕之、多久嶋亮彦、平野明喜、三鍋俊春、力丸英明（敬称略）

開催年月日：①平成 26 年 4 月 10 日、②平成 26 年 10 月 9 日

主な議題：1. 女性評議員枠について
2. 特定領域指導専門医について
3. データーベースについて

活動の概要：1. 女性WG と話し合いを行い、新理事長推薦枠として女性評議員を認めることとした。なお推薦方法は理事長に一任することとした。
2. 小児形成外科分野指導医について、金子剛先生を委員長として、WG を立ち上げていただき、WG の中で検討していただくこととなった。
3. 開業医の先生方に入力をしていただく方法について検討した。

1 5) 医療安全推進委員会

委員長：磯貝 典孝

委員：内沼 栄樹、遠所 瑞弘、高木 誠司、根本 充、四ツ柳高敏

開催年月日：①平成 26 年 4 月 9 日、②平成 26 年 10 月 10 日

③平成 27 年 1 月 10 日

主 な 議 題：1. 医療安全に関する情報収集

2. 医療用器材、医薬品の安全性に関する情報収集

3. 関連領域学会との情報交換

4. 1)～3)の学会ホームページへの掲載

活動の概要：1. 以下を学会ホームページに掲載した。

- 1) 『『良質な医療の提供に資する情報基盤の整備』事業に関する公募』厚生労働省医政局総務課保健医療科学技術調整官(2014. 2. 13)
- 2) 「医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望の募集」厚生労働省医政局経済課医療機器政策室(2014. 5. 1)
- 3) 「医療機器の不具合等報告の症例の公表および活用について」厚生労働省医薬食品局安全対策課(2014. 8. 8)
- 4) 『『地方厚生局における【再生医療等の安全性の確保等に関する法律】に関する説明会の開催』の実施についての周知」厚生労働省医政局研究開発振興課(2014. 8. 25)
- 5) 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律に関する通知について」厚生労働省医政局研究開発振興課(2014. 11. 13)
- 6) 『『医薬品・医療機器等安全性情報報告制度』の周知依頼』厚生労働省医薬食品局安全対策課長(2014. 11. 19)
- 7) 『『輸血療法の実施に関する指針』及び『血液製剤の使用指針』の一部改正』厚生労働省医薬食品局長(2014. 11. 21)
- 8) 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律に関する通知について」厚生労働省医政局研究開発振興課(2014. 12. 8)
- 9) 「国が行う特定細胞加工物の製造の許可等における登録免許税及び手数料にかかる事務処理について」厚生労働省医政局研究開発振興課(2014. 12. 9)
- 10) 「遺伝子治療臨床研究に関する指針の一部改正」厚生労働省大臣官房厚生科学課長(2014. 12. 10)
- 11) 「再生医療の迅速かつ安全な研究開発及び提供並びに普及の促進に関する基本的な方針」厚生労働省医政局経済課並びに研究開発振興課(2014. 12. 15)
- 12) 「医療機器及び再生医療等製品の不具合等報告の症例の公表および活用」厚生労働省医薬食品局安全対策課(2015. 1. 9)
- 13) 「独立行政法人医薬品医療機器総合機構が行う審査等の手数料」医薬品医療機器総合機構(2014. 12. 3)
- 14) 日本医療安全調査機構
 - a. 「フォンレックリングハウゼン病における血管破綻のリスク」(2014. 3. 13)
 - b. 「甲状腺術後の起動閉塞のリスク管理」(2014. 5. 23)

- c. 「腸管再建時における逆蠕動吻合のリスク」(2014. 12. 10)
- 15) 日本医療機能評価機構
 - a. 「シリンジポンプの取り違い」(2014. 4. 24)
 - b. 「はさみによるカテーテル・チューブの誤った切断」(2014. 5. 23)
 - c. 「2006 年から 2012 年に提供した医療安全情報」(2014. 6. 23)
 - d. 「人工呼吸器の配管の接続忘れ」(2014. 7. 23)
 - e. 「MRI 検査室への磁性体の持ち込み」(2014. 9. 29)
 - f. 「インスリン注入器の取り違い」(2014. 11. 21)
 - g. 「カリウム製剤の投与方法間違い」(2015. 1. 21)
- 2. 日本医療安全調査機構 平成 26 年度定時社員総会に出席(平成 26 年 6 月 24 日・日本外科学会会議室)(磯貝委員長)
2 年以内に、“医療事故調査制度の法制化”されることとなった。新制度の施行は平成 27 年 10 月と決まった。
- 3. 日本医療安全調査機構 平成 26 年度定時社員総会に出席(平成 26 年 9 月 24 日・日本外科学会会議室)(磯貝委員長)
新“医療事故調査制度”(平成 27 年 10 月より施行予定)に向けた取り組みについて説明があった。
- 4. 医療安全全国共同行動 2014 に出席(平成 26 年 11 月 23 日・幕張メッセ国際会議場)(磯貝委員長)
特別講演”患者安全のたどってきた道“(ハーバード大学 Dr. Goldman)において、米国における医療安全キャンペーンの結果が報告された。3 年間で 40%の医療事故減少が可能となった。
- 5. 厚生労働省および一般社団法人日本専門医機構の趣旨を踏まえて、日本形成外科学会学術集会(春・秋)のプログラムの中で、医療安全に関する講演を企画した。
第 23 回学会(松本)にて医療安全講演が開催された。
第 58 回学会(京都)では、厚生労働省医療安全推進室長 大坪氏に講演依頼をした。
上記の医療安全に関する講演の聴講は、今後、日本形成外科学会専門医取得および更新時に必要となることが予想されている。

16) 専門医統括会議

委員長：川上 重彦

委員：朝戸 裕貴、亀井 譲、貴志 和生、清川 兼輔、鈴木 茂彦、
田中 嘉雄、中塚 貴志、平林 慎一、細川 亘、山本 有平、
吉本 信也

開催年月日：①平成 26 年 4 月 10 日、②平成 26 年 7 月 17 日、③平成 27 年 2 月 27 日

主な議題：1. 日本専門医制評価・認定機構の報告

2. 形成外科領域における専門医更新制度について

3. 指導医制度構築について

4. 専門医制度における研修プログラムについて

活動の概要：1. 日本専門医機構が発足し、日本専門医機構内に立ち上がった「基本領域専門医委員会」、「基本領域研修委員会」に委員を推薦した。

2. 日本専門医機構による「形成外科領域」としての専門医更新基準を作成し、本評議員会・総会で評議員、会員の皆様にお諮りする。

3. 指導医制度を構築し、10月9日開催の臨時総会において、「形成外科領域指導医制度」、「形成外科領域指導医制度細則」を制定した。

・**指導医**：**分野指導医**資格もしくは**特定分野指導医**資格を複数有し、1回以上形成外科領域専門医の更新を行った者に対して、本人の申請に基づいて審査したうえで形成外科領域指導医として認定

・**分野指導医**：分野指導医認定の対象となる学会と分野指導医名称は以下の通り

- (1) 日本手外科学会（手外科分野指導医）
- (2) 日本美容外科学会(JSAPS)（美容外科分野指導医）
- (3) 日本創傷外科学会（創傷外科分野指導医）
- (4) 日本頭蓋顎顔面外科学会（頭蓋顎顔面外科分野指導医）
- (5) 日本熱傷学会（熱傷分野指導医）

・**特定分野指導医**：学会は形成外科領域専門医のうち特定分野について、必要にして十分な能力を有する者を特定分野指導医として認定する

- (1) 皮膚腫瘍外科分野指導医
- (2) 小児形成外科分野指導医（進行中）

4. 「形成外科領域」としての研修プログラム案を作成し、本評議員会・総会で評議員、会員の皆様にお諮りする。

17) 皮膚腫瘍外科指導専門医認定委員会

委員長：山本 有平

委員：石原 剛、清澤 智晴、黒川 正人、竹内 正樹、田中 克己、
堤田 新、寺師 浩人、中岡 啓喜、中川 雅裕、林 明照、
林 礼人、百束 比古、古川 洋志、迎 伸彦、元村 尚嗣、
森岡 康祐、安田 浩、山下 理絵、吉龍 澄子

活動の概要：1. 専門医認定審査

【第3回開催】

日時：平成26年10月8日(水)

※第23回日本形成外科学会 基礎学術集会前日

場所：キッセイ文化ホール

申請者数：25名

受験者数：24名

合格者数：24名

【第4回開催予定】

日 時：平成 27 年 10 月 7 日(水)

※第 24 回日本形成外科学会 基礎学術集会前日

2. 教育セミナー

【第 9 回開催(第 57 回総会・学術集会 開催時)】

日 時：平成 26 年 4 月 11 日(金)8:00-9:00

受講申込者数：79 名

【第 8 回開催(第 23 回基礎学術集会 開催時)】

日 時：平成 26 年 10 月 10 日(金)8:00-9:00

受講申込者数：53 名

3. 委員会

日 時：平成 26 年 4 月 9 日(水)12:00-13:00

以後、総会・学術集会および基礎学術集会 開催時の年
2 回開催予定

4. 皮膚腫瘍外科指導専門医シンポジウム

【第 2 回開催(第 58 回 総会・学術集会 2 日目)】

日 時：平成 27 年 4 月 9 日(木)

場 所：ウェスティン都ホテル京都

テ ー マ：“Oncoplastic Skin Surgery ～私ならこう治す！”

司会：山本 有平(北海道大学医学部 形成外科)

寺師 浩人(神戸大学医学部 形成外科)

指定演者候補：担当部位

1) 熊本赤十字病院 形成外科 黒川正人：眼瞼

2) 北海道大学 形成外科 古川洋志：手指

3) 順天堂大学 形成外科 林 礼人：外陰

4) 大阪市立大学 形成外科 元村尚嗣：足

5) 神戸大学 形成外科 野村 正：外鼻

6) 東京女子医科大学 形成外科 竹内正樹：口唇

7) 弘前大学 形成外科 漆舘 聡志：耳

18) 女性医師支援ワーキンググループ

委 員 長：吉村 陽子

担 当 理 事：鈴木 茂彦

委 員：饗場恵美子、小川 智子、館 正弘、田邊 裕美、寺師 浩人、
徳永 和代、藤井海和子、舟山 恵美、森 文子、矢野 志春、
山下 理絵、山脇 聖子

開催年月日：①平成 26 年 4 月 9 日、②平成 26 年 10 月 10 日

その他随時メール委員会

活動の内容：1. 第 57 回日本形成外科学会総会・学術集会会長平野明喜先生に、女性
医師支援に関する特別企画を依頼。4 月 9 日に特別企画「女性医師の
キャリア継続のために」が開催された。

2. 上記特別企画内で委員を含む女性医師 4 名による体験の報告と、男

性教授 2 名からの大学における女性医師支援の取り組みが報告された。

3. 第 58 回学術集会については、メンター・メンティー制度の端緒として、「先輩形成外科医と語る会」を企画。そのための準備を行った。
4. 学会HPに女性医師支援のページを開設。会員からの意見や要望を投稿できるようにした。(内容は未完成の部分あり。今後会員の子育て経験などを掲載していく予定)
5. 女性評議員枠の新設については、将来構想委員会との共同課題となり今後に継続されることとなった。
6. 学会中の託児について各学会に設置していただくよう理事会に申請し、承認された。今後費用負担について検討される予定。
7. 学会中の託児について、各学会前日の学術講習会から設置されることを提案した。費用負担については継続検討課題となっている。

19) ブレスト・インプラントガイドライン管理委員会

委員長：大慈弥裕之

副委員長：野平久仁彦

担当理事：朝戸 裕貴

委員：朝戸 裕貴、岩平 佳子、高柳 進、南雲 吉則、三鍋 俊春
山本 有平

開催年月日：①平成 26 年 4 月 10 日、②平成 26 年 9 月 4 日、③平成 26 年 10 月 10 日

主な議題：乳房増大術ブレスト・インプラントガイドラインについて

活動の概要：1. 平成 26 年 9 月 4 日本美容外科学会総会（JSAPS, 征矢野会長）期間中に 2014 乳房増大用講習会開催。参加者 188 名
2. 実施医師・実施施設認定。
3. 実施施設更新。
4. 平成 27 年度講習会決定。平成 27 年 4 月 8 日本形成外科学会総会（鈴木茂彦会長）、平成 27 年 日本美容外科学会総会（JSAPS, 吉本信也会長）

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産算の明細

基本財産及び特定資産の明細については、「財務諸表に注記」の「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」に記載の通りである。

2. 引当金の明細

該当なし